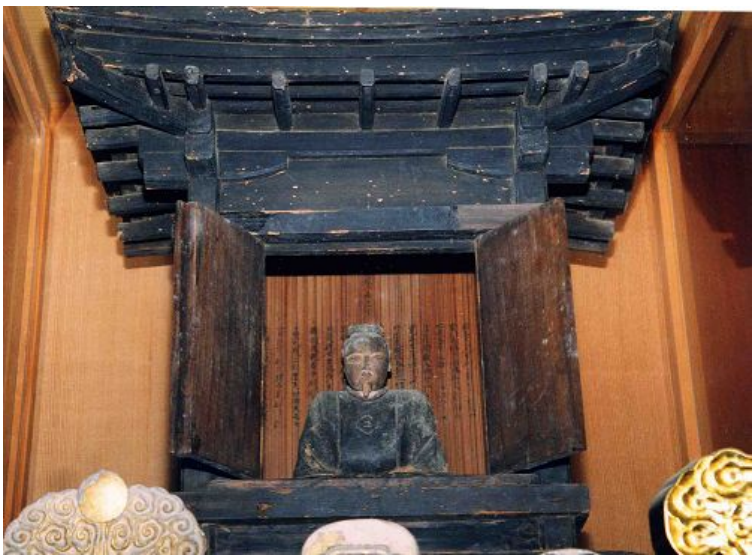区分・種別	県指定有形文化財（建造物）		
名　　称	雲門寺厨子（うんもんじずし）　1基　　附　神像1躯		
所　在　地	松山市本谷		
所　有　者	雲門寺	管 理　団 体	
指定年月日	昭和40年12月24日		
解　　説	雲門寺は、河野氏の一族南通武（横山城主）が釈海翁を開山として創建したといわれ、代々南氏の菩提寺であった。河野氏の滅亡で衰微したが、江戸時代中期に釈古鏡が中興し、その時、天台宗から現在の黄檗宗とした。 この厨子は純和様で、後方壁板の銘文によると、元亀2（1571）年に六地蔵尊を安置するため、雲門寺塔頭（たっちゅう）宝珠院に設けられたもので「願文沙弥慶秀（しゃみけいしゅう）大工貞吉」の名が記されている。 隅木（すみぎ）、舟肘木（ふなひじき）、木舞（こまい）、棟の面取りなどに室町時代の様式をもち、高さ61㎝、桁行60㎝、梁間40㎝のヒノキ造りの小型厨子である。厨子内部には、河野通忠の神像（高さ25㎝）が安置されている。当初は地蔵尊を祭っていたが、いつのころからか通忠の像を納めるようになったという。